

山梨県有林における 森林管理上注意が必要な主要猛禽類

ーイヌワシ・クマタカ・オオタカ・サシバー



平成 27(2015)年 4 月

山梨県森林総合研究所

はじめに

山梨県有林は、第2次県有林管理計画（平成23年度～平成32年度）に基づき、管理を行っていますが、FSCの10の原則と56の規準に沿ったグローバルスタンダード（世界標準）な視点を付加し、持続可能な森林経営をさらに推進していくためにFSC森林管理認証を取得しています。その中で、FSC森林管理認証の大きなテーマが環境への配慮であり、希少種の保護を考慮した森林管理が求められています。

本資料では、「持続可能な生態的森林管理における希少種管理支援ツールの開発（平成25-29年度県単試験研究課題）」の一部として、森林に生息し、特に配慮が必要な猛禽類4種（イヌワシ・クマタカ・オオタカ・サシバ）について、森林施業上の留意点及び営巣木・営巣地の特徴を紹介しています。今後の業務の参考になれば幸いです。

なお、すべての写真提供および執筆は山梨県猛禽類研究会の青木進会長に大変お世話になりました。ここに記してお礼申し上げます。

【本資料の取り扱いについて】

希少猛禽類については、生息地を公表することで、その繁殖活動等に支障を及ぼすことがこれまで指摘されている。本資料では生息地は特定できないようにしている。

【参考図書（これらの図鑑等も活用下さい）】

- ・新訂ワシタカ類飛翔ハンドブック 山形則男 文一総合出版
- ・ワシタカ・ハヤブサ識別図鑑 真木広造 平凡社

山梨県有林における希少猛禽類の保全について

山梨県猛禽類研究会 会長 青木進

国では平成 8 年に「猛禽類保護の進め方」を策定し、イヌワシ・クマタカ・オオタカの 3 種について、保護の指針を示し活用されてきており、平成 24 年 12 月には、その改訂版が示され公表された。

また、平成 25 年 12 月には「サシバの保護の進め方」が公表されるに至り、国では各種開発行為に際しての保全措置の検討のための考え方と、調査方法や保全措置の指針が定められたところである。

そのため、林業施業等（森林管理・施行・治山工事・林道開設等）を行うにあたり、注意すべき猛禽としての注目種としては、まずこの 4 種に注意をする必要があると考えられる。

そこで、当該 4 種についての生息と森林施業との調整を図るため、森林施業上の留意点及び営巣木・営巣地の特徴について、次のとおり紹介する。

オイヌワシ

- ・ 森林施業上の留意点

県内に生息するイヌワシは、南アルプス山塊のみに限られる。広大な行動圏（25-250 平方キロ）を有するものの、本種の生息にとって重要なエリアは営巣地周辺と採食地である。採食環境は、開放的な空間が形成されている植生や環境となっている。

そのため、森林施業上留意するエリアとしては、採食環境及び営巣環境となるエリアということになるものの、広い行動圏内には数多くの採食環境があるため、本種の場合は営巣環境に留意することが大事で、営巣地周辺における森林施業は十分に注意する必要がある。特に大規模な森林伐採・治山工事・林道の新設等には留意が必要である。

- ・ 営巣木・営巣地の特徴（近縁種との相違点等）

営巣地のほとんどは、切り立った岩場（崖）や、急峻な斜面にある大木に巣をかけている。樹木に営巣する場合はコメツガ、アカマツ、モミ等の針葉樹の大径木を選択し、クマタカの巣に似るも、本県においては岩場に営巣することがほとんどである。





○クマタカ

・ 森林施業上の留意点

森林の発達した山地帯に好んで生息し、森林内を主な活動エリアにしている。採食環境は成熟し林内に侵入しやすい高木林を好むものの、獲物を見つけることが容易な林縁部や開放地（伐採跡地・自然草地・崩壊地等）も好んで採食地として利用している。また、急斜面の大径木で営巣する。

そのため、林道建設や治山工事等よりも、広域的に行われる森林伐採により生息地や採食環境を失う可能性があるため、留意することが必要である。

・ 営巣木・営巣地の特徴

本種はコメツガ・アカマツ・モミなどの大径木に営巣する事が多く、そのような樹種が残る場所近くに生息している可能性が高く、集落の周辺であっても営巣に適した森林があれば営巣する。

ノスリやオオタカなどの猛禽と生息地が重なる場合があるが、本種の巣は 1m を越えるほどの大きさであり、大径木に営巣することから他種との区別をつけることができる。





○オオタカ

・ 森林施業上の留意点

急峻な山岳地帯よりも傾斜の緩やかな丘上の地形を好む傾向にあり、富士山麓・ハケ岳山麓・茅ヶ岳山麓などのような緩傾斜地に多く生息する。ほとんどの場合、植林された針葉樹に営巣する。行動圏は生息地により異なるが、それほど広くないことが知られており、森林内だけではなく、周辺にある農耕地や河原などがモザイク的に広がる環境に生息している。

そのため、採食環境よりも営巣環境の保全が必要であり、営巣地を直接的に破壊してしまう森林伐採等に留意する必要がある。

・ 営巣木・営巣地の特徴

営巣はアカマツ・カラマツ・モミ・スギ・ヒノキなどで、営巣する木は胸高直径が 40cm～60cm 程度の伐期に達した木がほとんどである。

ノスリやハチクマも同じような環境に営巣し、しばしば同じ巣を共有し、年によって繁殖する種が変わることもあるが、営巣地の重要性に差が生じることはない。





○サシバ

・ 森林施業上の留意点

本種は県内の低山地帯に広く分布し、丘陵地や低山地が浸食されて形成された水田を中心とした農耕地が広がる環境に好んで生息している夏鳥である。

採食地は林縁部・農耕地・河原・小河川などで、そこに生息している両生類・爬虫類・昆虫類などを主に採食している。

また、比較的樹齢の若い細い樹木でも営巣できることと、毎年同じ巣を使うこともそれほど多くないことから、他種と違って営巣木の重要性は低く、採食環境を維持していくことが重要であると考えられている。

そのため、農地や用水路等を健全に維持していくことが重要であることから、中山間地における農林業を振興し、集落を存続させることが重要であると考えられる。

・ 営巣木・営巣地の特徴

県内では、餌種として利用するのはカエルが多いため、カエルの生息環境である水辺や水田、小河川などに隣接しているアカマツ・スギ・モミなどの針葉樹に営巣し、巣はオオタカよりもかなり小さく粗末であり、他種と混同することは少ない。



